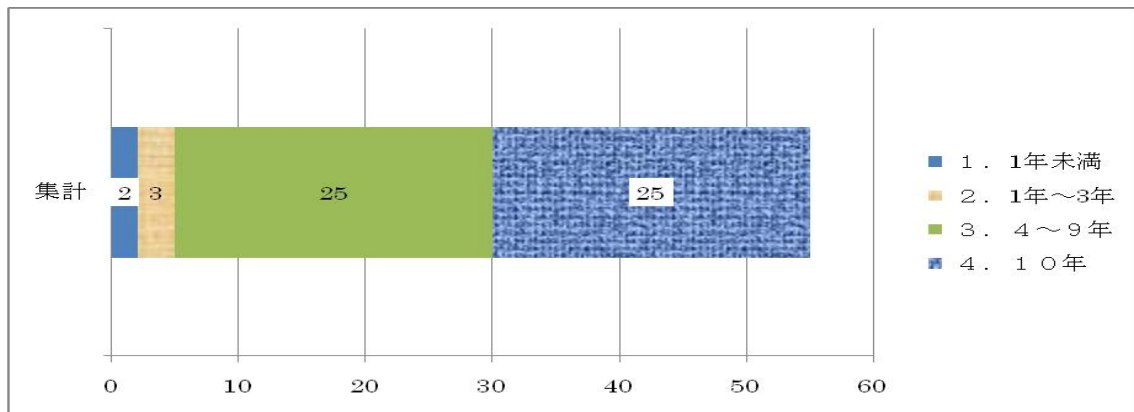


⑥子どもに本を手渡す担い手の意識

学校図書館司書へのアンケート調査

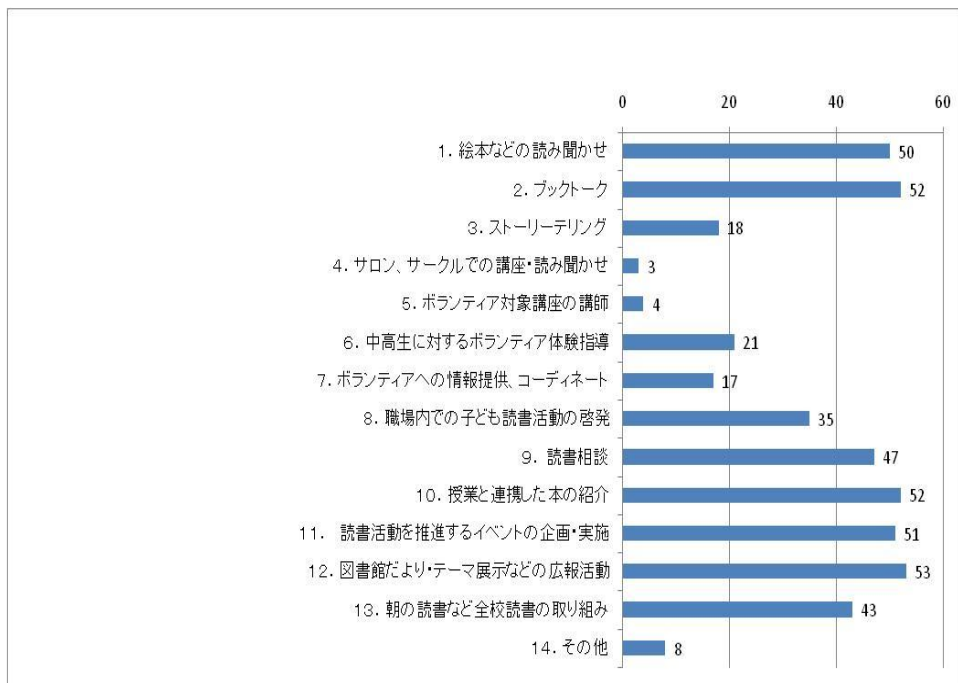
学校司書59名にアンケート調査を実施しました。

・子ども読書の業務にかかわった期間について



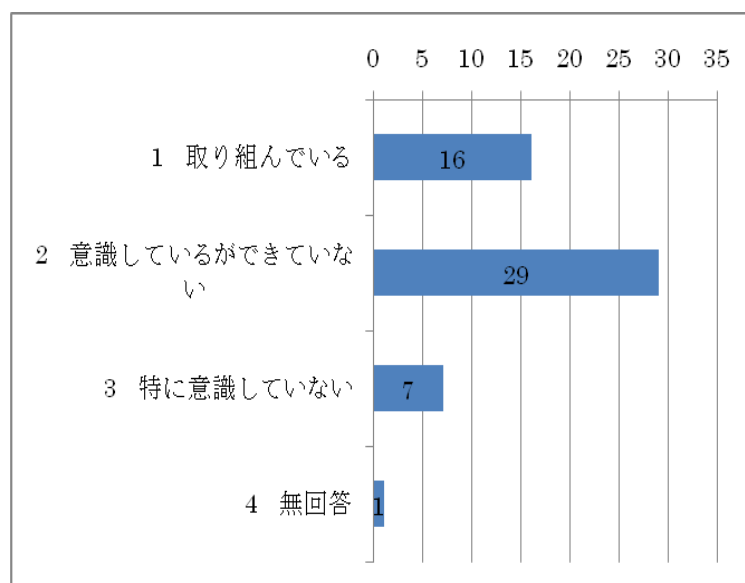
目盛の数値は人数。

・あなたが業務中に行っていることについておたずねします。あなたがこれまでに行った業務の内容はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



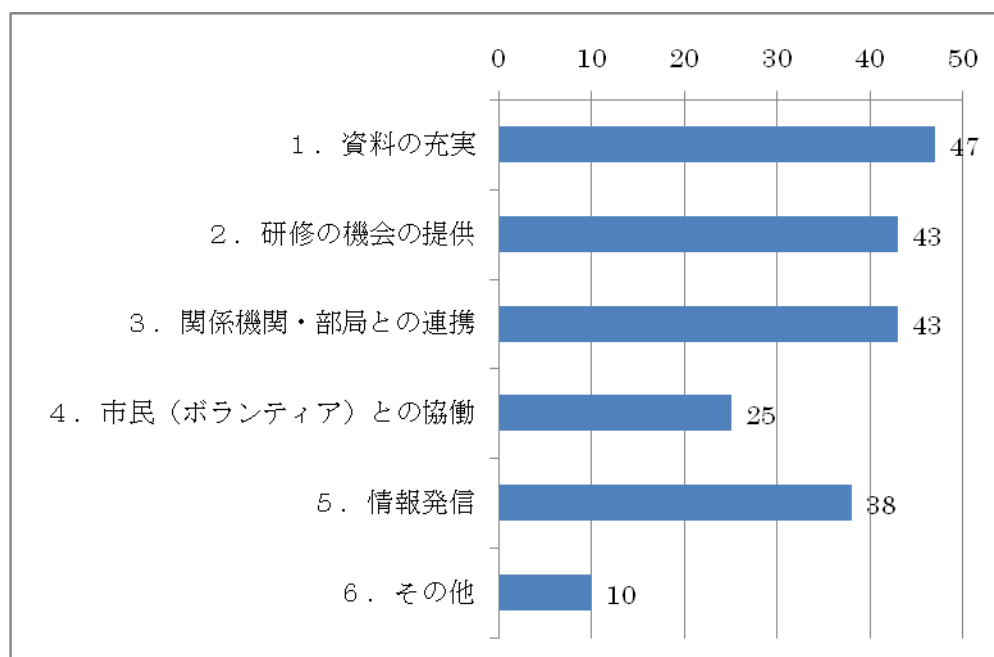
目盛の数値は人数。あてはまるものをすべてあげる複数回答の結果です。

・「豊中市子ども読書活動推進計画」を意識し、計画を視野に入れた業務に取り組んでいますか。



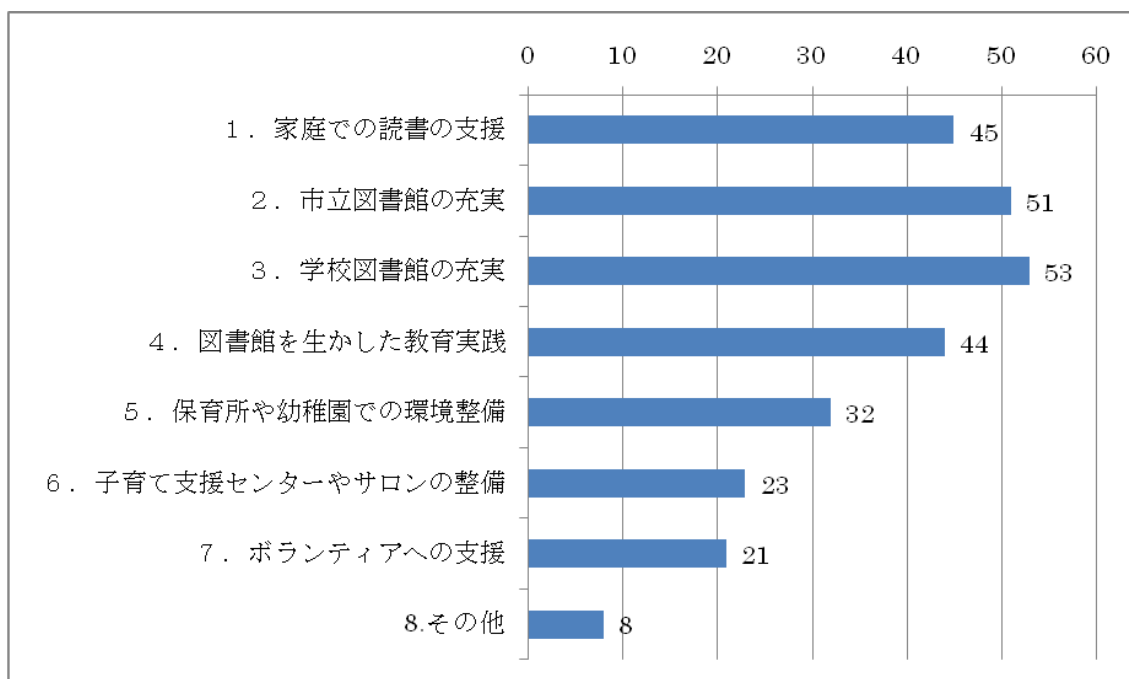
目盛の数値は人数。

・市立図書館や学校図書館の取り組みを充実するため、豊中市が今後さらに力を入れて取り組むべき課題はどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



目盛の数値は人数。あてはまるものをすべてあげる複数回答の結果です。

・豊中のすべての子どもたちが読書を楽しむために今後さらに必要な取り組みは、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



目盛の数値は人数。あてはまるものをすべてあげる複数回答の結果です。

(アンケートより伺える傾向)

- ・ 9割の職員が子ども読書の業務に関わって 4 年以上が経過しており、業務の蓄積をいかした取り組みを学校図書館で実施できる環境となっている。
- ・ 業務の中で絵本などの読み聞かせだけでなく、市立図書館の司書では少数であったブックトークに多くの学校司書が取り組んでいる様子がうかがえる。さらに授業と連携した本の紹介や広報活動、全校読書の取り組みなど、学校において子どもに本を手渡すとともに、授業とかかわった読書活動を推進している。
- ・ 市立図書館司書より推進計画を意識しているが業務に取り組めていないと、約半数の学校司書が回答している。
- ・ 学校司書が学校図書館の充実のために優先順位が高い課題として、資料の充実をあげている。